

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

エゾゲンゴロウモドキ



2000年, 深浦町十二湖, 山内智

青森県：C 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

■形態的特徴

体長は35mm前後。上翅は黒褐色であるが、多少緑色を帯び光沢がある。雌の上翅上部から下部に向かって左右各10条の縦溝がある。雄にはない。

■分布等の概要

本種は、国内では北海道、本州北部に分布する。山間部の水のきれいな池沼に生息している。個体数は少なく環境の変化に非常に弱い種類である。

県内では、八戸市、むつ市川内、鱒ヶ沢町ノロ沼・青池・乱岩ノ森、深浦町追良瀬川・十二湖、大鰐町十和田山、十和田市蕨などから記録されている。近年、深浦町十二湖では心ない採集者の乱獲により、個体数が激減した。他地域でも乱獲や環境が生息に適さなくなってきたり、個体数減少や絶滅が危惧される。

(山内智)

コウチュウ目 コガネムシ科

オオチャイロハナムグリ



1998年, 十和田市八甲田山地, 山内智

青森県：C 環境省：準絶滅危惧

■形態的特徴

体長は25mm前後。上翅は黒褐色で光沢がある、大型のコガネムシである。

■分布等の概要

本種は、自然度の高い地域に分布する希少種である。樹洞内に生息し、ブナやスギに多い。

本種は、本州、四国、九州に分布し、県内では、八甲田・十和田山地、津軽半島、白神山地、下北半島に分布が集中している。この他に、岩木山、三戸町、田子町雷鉢森などからも記録されている。

(山内智)

コウチュウ目 コメツキムシ科

チビヒサゴコメツキ



1992年, 弘前市岩木山, 山内智

青森県：C 環境省：該当なし

■形態的特徴

体長は5mm前後。体色は黒色であるが、上翅は褐色を帯びることがある。

■分布等の概要

本亜種は、高山性で産地が局所的な希少種である。青森県がタイプ産地で、G. Lewis が1880年に岩木山で採集した2頭の標本によって新種記載された。

本亜種は、東北地方に分布するが、県内では岩木山と八甲田山から知られ、岩木山、八甲田山、十和田市黄瀬沼、青森市大岳での記録がある。

これらは山頂付近の石下から発見されることが多い。生息地は、国立(定)公園に指定され保護されているが、近年の登山者の増加により、環境が悪化しており、青森県では両地域の山頂付近の表土の保全対策を積極的に行っているが、生息が危惧される。

(山内智)

ハチ目 アナバチ科

ニッポンハナダカバチ



1997年, つがる市(旧木造町), 山田雅輝

青森県：C 環境省：準絶滅危惧

■形態的特徴

体長20～23mmで豊富な体型をし、体色は黒色で、黄白色の横縞模様がある。上唇が異常に長く、前単眼は不整形である。

■分布等の概要

県内では主に日本海および太平洋沿岸に散在する砂丘地に生息し、また、陸奥湾沿岸にも一部生息地がある。従前は内陸の岩木川など大きな川の河川敷にも普通に生息していたが、河川敷の生態系が激変し、壊滅状態となった。成虫は7～9月に活動し、砂地に深く穴を掘って巣を作り、幼虫の餌として大型のアブ類を狩り、幼虫が成長するまで随時給餌する。

(山田雅輝)

ハチ目 アナバチ科

シモヤマギングチ



1997年, 八甲田山, 山田雅輝

青森県：C 環境省：該当なし

■形態的特徴

体長7mm 前後でやや太型、全体黒色で頭が大きく、腹部が短い3頭身型である。

■分布等の概要

十和田山地の1個体により1958年に新種記載され、その後も青森県と福井県から数個体の記録があるだけで、極めて希少な日本固有種である。県内では十和田山地で2個体の採集記録があつて以来35年間途絶えていたが、1997年に八甲田山地で再発見された。成虫は7～9月に活動し、立ち枯れたブナに穿孔して巣を作り、クロバエ科やイエバエ科の成虫を狩って幼虫の餌とする。

(山田雅輝)

ハチ目 アナバチ科

ニトベギングチ



1998年, 白神山地, 山田雅輝

青森県：C 環境省：情報不足

■形態的特徴

体長11～17mm、普通体型、体色は黒色で、第1～3腹節に褐色の帯状斑がある。単眼は低三角形に配置され、額印がはっきりし、腹部にも点刻が密生する。

■分布等の概要

青森県を基準産地とする全国的に希少な種であり、生息条件が自然度の高い森林に限定されて環境変化の影響を受けやすい。本州に分布し、県内では白神山地・相馬・青森・十和田湖町・田子町・小泊などで生息が確認されている。成虫は7～9月に現れブナ、トチなどの枯木に穿孔して巣を作り、大型のシタバやシャクガのようなガ類の成虫を狩って、幼虫の餌とする。

(山田雅輝)

ハチ目 ケアシハナバチ科

シロアシクサレダマバチ



2007年, 岩木山, 山田雅輝

青森県：C 環境省：該当なし

■形態的特徴

体長8.5～11mm、体色は黒色で、前翅肘室が3個あり、後脚第1付節に刷毛が生えている。雄は脚に黄斑がり、雌は頭楯に密毛があつて、頬と頭頂の点刻が弱い。

■分布等の概要

北海道と本州に分布し、本州では今のところ青森県だけである。県内では岩木山麓の長平・弥生・岳温泉、黒石市・菱喰山・川原平・夏泊半島などで認められているが、各地とも分布域が狭く、特定の花に依存しているため、生息できる環境条件が限られている。成虫は7月下旬～8月にかけて活動し、アワブキを訪れる。中でもクサレダマが花粉採集源として利用されている。

(山田雅輝)

チョウ目 シヤクガ科

フチグロトゲエダシヤク



2008年, 五所川原市, 工藤忠

青森県：C 環境省：該当なし

■形態的特徴

成虫は4～5月上旬に出現し昼間活発に飛ぶ。雄の触角は特徴的な長い羽毛状で、翅は黄白色地に黒褐色の幅広い縁取りがあつて美しいが、飛翔中は目立たない。雌は翅が退化しており広範囲の移動産卵ができない特性がある。

■分布等の概要

幼虫は多食性で、タデ・マメ・バラ・キクの各科につく。国内では北海道・本州・四国・九州に分布するがいずれも産地が限られる。県内では現在のところ岩木川下流域の河川敷、及びその周辺の田畑地でのみ見られる。以前は旧金木町の住宅周辺にも生息していたというが、現在では宅地や大型郊外店などの進出で整備が進んでいる。

(佐藤博)

ガロアムシ目 ガロアムシ科

ガロアムシ



1998年, 大鰐町, 山田雅輝

青森県：D 環境省：該当なし

■形態的特徴

生きた化石といわれる原始的な昆虫であり、成虫は無翅、体長20mm位で、体型は細長なコオロギ型をし、体色は黄白色に褐色味を帯びる。

■分布等の概要

本州に分布し、県内では成虫が大鰐町と弘前市で各1個体が得られている。ほかに幼生と思われる個体が石川・久渡寺・雷山などでも認められている。山地性で地中に棲み、落葉下で活動することもある。1世代に6年前後を要し、成虫は9～11月に出る。肉食性で昆虫、クモなどを餌としている。

(山田雅輝)

ハチ目 ナギナタハバチ科

トガシオオナギナタハバチ



1999年, 八甲田山, 山田雅輝

青森県：D 環境省：該当なし

■形態的特徴

雌は体長 14mm 位、体色は黒色で触角、後脚も黒色、前・中脚は褐色で、後脚が太く長い特徴がある。触角の先端数ミリが一段と細まる。近年に新種記載され、独特な形態をしているにも拘わらず、それまで存在が分からなかった希少種である。

■分布等の概要

本州に分布し、県内では八甲田山蔦温泉付近で 1999 年に1雌が認められているだけである。本種は山地性でサワグルミを食樹としており、成虫は5～6月に出現する。

(山田雅輝)

コウチュウ目 テントウムシ科

ルイヨウマダラテントウ



1995年, 十和田市(旧十和田湖町)蔦, 安富和男

青森県：LP 環境省：該当なし

■形態的特徴

体長 6.5～7.0mm。上翅は濃赤褐色で28の黒色斑紋をもつ。

■分布等の概要

本種は、北海道から本州中部以北にルイヨウボタンを主食とする個体群、関東地方南部から西は岐阜県までジャガイモを主食とする個体群が分布するが局所的である。県内では、産地が点在している。

(山内智)

昆虫類以外の無脊椎動物

ホウネンエビ目 キタホウネンエビ科

キタホウネンエビ



2006年, 東通村, 大八木昭

青森県：A 環境省：該当なし

■形態的特徴

成体で体長 20mm 前後の、腹部にある 11 対の遊泳脚で腹部を上にして泳ぐ。やや遊泳力のある大型プラントンで、大型鰓脚類に分類されている。

■分布等の概要

春になって積雪がとけて水がたまるような窪地に発生する。背泳ぎでゆっくりと泳ぐ。1か月ばかりの間に成体となって、交尾する。水たまりは初夏までには干上がって、成体は死ぬ。卵が残って休眠し、次の雪解け水が溜まるまでは発生しない。

(大八木昭)

中腹足目（ニナ目） イツマデガイ科（カタヤマガイ科）

クビキレガイモドキ



2009年, 芦崎, 大八木昭

青森県：B 環境省：該当なし

■形態的特徴

殻高7mm 前後の暗黄褐色の巻貝であるが、殻頂が折れてなくなるので、クビキレの名がついている。

■分布等の概要

北陸以北、北海道の函館から稚内などの海岸の打ちあげられた海藻類などに見られる。河川や海岸線の改修にともなう海岸環境の変化と、漁網の利用で打ち上げられる海藻などの減少が生息に影響を与えたものと思われる。

(大八木昭)

クモ目 コモリグモ科

イソコモリグモ



1999年, つがる市(旧木造町), 山田雅輝

青森県：B 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

■形態的特徴

体長は雌が18～24mm、雄が10～20mmで、腹背は濃い灰色の地に3対の黒班があり、下面は全体黒色である。

■分布等の概要

北海道から島根県までの日本海側におもに分布する。県内では鱒ヶ沢から七里長浜にかけての海岸に分布し、太平洋側では例外的に八戸で見つかっている。生息地は浪打ち際より少し内陸側で、植物の根元や流木の傍に深さ10～20cm位の穴を掘って棲家としている。夜行性で昼間は穴に籠もり、夜間に出て活動し、小動物を餌とする。

(水木隆治)

エビ目 アメリカザリガニ科

ニホンザリガニ



2009年, 佐井村, 大八木昭

青森県：B 環境省：絶滅危惧Ⅱ類

■形態的特徴

清流に住む赤褐色ないし黒褐色のずんぐりとしたザリガニで、体長は40～60mm、まれに70mmを超える。頭胸甲は円筒形で額角は幅広く短い三角形。

■分布等の概要

北海道と東北北部に生息する日本固有種で、本州での分布域は大部分が県内である。産卵は早春に行われ、抱卵期間は3～4か月に及ぶ。産卵するまで5年以上かかり、他のザリガニ類に比べると卵数が極めて少ない。

(大高明史)

